総務文教常任委員会会議記録

- 1 日 時 令和6年5月10日(金) 午後1時25分から午後2時55分まで
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 桑原委員長、小野塚副委員長、今成、高柳、大島 各委員
- 4 欠席委員 中村委員
- 5 途中退席 なし
- 6 説明者 星野教育部長、栞原教育総務課長、原澤文化財保護課長、
阿部スポーツ振興課長
青柳総務部長、栞原秘書課長、関上地域安全課長、角田企画政策課長、
本多財政課長、横山契約検査課長
- 7 事務局 武井事務局長、峰岸次長兼庶務係長
- 8 傍聴者 なし
- 9 傍聴議員 なし
- 10 議 事
 - (1) 教育部各課の所管・調査事項報告
 - (2) 総務部各課の所管・調査事項報告
 - (3) 総務部及び教育部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
 - (4) 今後の日程について
 - (5) その他
- 11 会議の概要
 - (1) 総務部各課の所管・調査事項報告

○委員長 それでは、次第(1)教育部各課の所管事項報告・調査事項説明に入る。

まず、教育総務課の所管に係る事項について説明願う。教育総務課長。

(栞原教育総務課長 説明)

ア 教育総務課

・報告事項

- 1 沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会に対する諮問について
- 2 多那地区の小学校及び中学校の統廃合に関する要望書について

・調査事項

- 1 小中学校の統廃合に係る未就学児の保護者へのアンケートについて

○教育総務課長 報告事項1「沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会に対する諮問について」である。資料2ページを御覧いただきたい。本諮問については、沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会条例の規定に基づき、沼田市立小中学校の適正規模及び適正配置について諮問するものであり、諮問事項及び諮問理由は資料記載のとおりである。本審議会は、小中学校のPTA代表者、区長代表者及び学識経験者で構成され、第1回目の審議会については、今月17日に開催予定である。

次に報告事項2「多那地区の小学校及び中学校の統廃合に関する要望書について」であ

るが、資料3ページを御覧いただきたい。記載のとおり、多那小中学校の令和5年度及び令和6年度のPTA会長から、保護者の総意により多那小学校及び多那中学校の統廃合を早急に進めていただきたいと、要望書が提出されたものである。対応としては、先ほど報告した沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会における今後の答申等を踏まえ、地元と協議しながら丁寧に進めてまいりたいと考えている。

次に、調査事項1「小中学校の統廃合に係る未就学児の保護者へのアンケートについて」であるが、資料1ページを御覧いただきたい。昨年度5月と12月に実施した各アンケートでは、小中学生の保護者のほか、近い将来子供を小学校へ通わせる未就学児の保護者の意見を伺うため、公立幼稚園や保育園、認定こども園等15施設へ協力を依頼した。

1回目のアンケート結果の回答数は254件であり、回答数の約2割を占めた。規模の縮小した小中学校について、考えに近いものを聞いたところ、小中学生の保護者は、小学校の統廃合をすることは「やむを得ない」とする回答が最も多く、次に多かったのは「統廃合は避けるべきである」であった。未就学児の保護者も小学校の「統廃合をすることはやむを得ない」とする回答が最も多い結果となった。次に多かったのは「統廃合をするべきである」であった。中学校の統廃合については、小中学生の保護者及び未就学児の保護者ともに「やむを得ない」とする回答が最も多く、次に多かったのは「するべきである」であった。

2回目のアンケートでは150件の回答があり、回答数の約1割を占めた。お子様が通うまたは通う予定の小学校の統廃合の検討について聞いたところ、小中学生の保護者は「検討は必要ではない」が最も多く、次に多かったのは「検討は必要である」であった。一方、未就学児の保護者は「分からない」とする回答が最も多く、次に多かったのは「必要である」であった。中学校の統廃合の検討については、小中学生の保護者は「必要ではない」とする回答が最も多く、次に多かったのは「分からない」であった。一方、未就学児の保護者は「分からない」とする回答が最も多く、次に多かったのは「必要である」であった。

なお、記載の回答割合については、四捨五入の端数処理の関係から合計が100%にならない項目があるので御了承いただきたい。また、2回目のアンケート結果は、学校名を記載して回答していただいております。保護者全体の回答を小学校区・中学校区ごとに集計し、市ホームページで公表しているところである。

教育総務課からは、以上である。

○委員長 説明が終わった。報告事項1「沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会に対する諮問について」質疑はあるか。高柳委員。

○高柳委員 これは条例に基づいて設置をしたものだと思う。PTA、学識経験者、区長で最大15人で、第1回目は17日に行うということであるが、教育関係の人は学校のほうの利益代表はいなくていいのか。学識経験者はどのような方を想定しているのか伺いたい。

○教育総務課長 委嘱した委員の構成内容であるが、PTA代表者として6名、区長代表者が2名、学識経験者が7名、合計15名である。PTA代表は小中学校のPTA連合会に依頼し、区長は区長会に依頼した。また、学識経験者は小中学校の校長協議会からの推薦と元教育長や現在の青育連の方々を委嘱した。

○高柳委員 分かった。そこで質問の理由がこの2ページに掲載しているわけだが、どこを見ても大体一定の人数が望ましいのだと。少人数には少人数のメリットがあるし、大規

模なら大規模のメリットがある。最低限の人数が必要であると文科省のホームページを見ても書いてある。それぞれに照らし合わせ、どのくらいの規模の学校が望ましいのか、諮問するつもりか。

○教育総務課長 教育委員会の考えを、先に示すことは今のところ想定していない。やはり文科省の手引きや、国の法令にある学級編制の基準を比較した上で、沼田市における適正な規模、適正な配置についていろいろな資料を提供しながら、共通理解を図った上で忌憚のない意見を伺い方向性を絞り込んでいきたい。

○高柳委員 その数における適正規模は、先ほど言ったとおりだが、例えばこれからのニーズとすると、いろいろ先端教育やフリースクール、逆に今度は今の集団教育になかなか馴染めない方々が求めているものや、そういうカテゴリー、教育単位ごとの課題を示す予定はあるか。

○教育総務課長 こちらのほうであらかじめ想定している情報提供の内容とすれば、義務教育学校や、小中一貫校、小規模特認校、県内の先進自治体で導入している形式は情報提供する予定である。ただし、先ほどおっしゃられたフリースクールの関係は予定していない。なお、委員から説明の希望があれば当然追加資料として整えて御説明させていただく。

○高柳委員 最後にもう一点、いつ頃までにこの会議を開催する予定か。

○教育総務課長 今後の進捗状況にもよるが、少なくとも委員に対する現状説明や、課題等を共有した上で調査審議していただく必要がある。これらの説明は2度にわたって行うことを想定している。現状やその課題との共通理解を図った上で、追加資料の提出等も考えられるので、開催回数は決めていない。ただし、時間的な猶予もないので円滑な運営に努めたいと考えている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、報告事項2「多那地区の小学校及び中学校の統廃合に関する要望書について」質疑はあるか。高柳委員。

○高柳委員 これは先ほど説明があったが、学校統廃合とは切り離して早く一緒にしてくれないかという意見があったと思うが、そういう意見にはお答えできないか。そのような仕組みになっていないのか。

○教育総務課長 多那小中学校の統廃合に関する要望書では、要望事項として、沼田市の将来を長期的に鑑みて統合先の学校を検討してもらいたいとあり、一度統合したところが、沼田市の全体計画でさらにまた統合の対象になるということ避けたいということもあるため、別に動くことは難しいのではないかと考えている。

○高柳委員 この6ページにあるその他というふうに7つほどフリーの意見があるわけだが、5ページ6ページの一番下を見ると、例えば早急に統合できないのだとすると、自分の子が卒業してしまうわけである。卒業すると経験者の意見としての立場でいいのか、自分の子の問題として考えた方がいいのか立場の違いがでる。どのぐらいのスパンで考えた方がいいのか、非常に重要なことだと思う。資料を見ると学年で1人もいない時期があることから、かなり危機的な数字である。これですぐに動かないのであれば、この子たちの親御さんは、今の多那小中学校で卒業までいることになる。あまり考えなくても済むという状態になるのではないか。このため再三申し上げているが、何年ごろということを示さない

と、自分の子の問題なのか、卒業してからの問題なのか、親御さんが無責任になるわけではないが、考え方が違ってくると思うし、混乱すると思う。未就学児の方に聞いているが、本当に考えてもらわないといけないのはそちらの方ではないかと思う。だから、期限もできるだけ早く示してほしい。くどいように申し訳ないがその辺についての考え方を伺いたい。

○教育総務課長 具体的な配置計画をいつごろ示すかということだと思うが、当然こちらでもできるだけ早期を目指す。まずは審議会等の進捗によるので、御理解いただきたい。

○高柳委員 お金もない、校舎も老朽化している、人数が減っている、だからしょうがないということで話せば、みんな夢がなくなってしまう。利根沼田には例えば自然があるとか、のびのびとした環境があるとか、このような特色ある教育をどこでやるか、今の当事者の皆さん、親御さんに示すことがとても大事ではないか。そのこと自体が教育になるのではないかと思う。いろいろな可能性や資料をできるだけ的確に示していただきたい。考え方があれば伺いたい。

○教育総務課長 検討経過については、広報やホームページで適時適切に公表に努めてまいりたい。委員からいただいた意見も参考にしたい。

○大島委員 この問題は、ある程度早めに前向きに考えてほしいと言っているが、やはりはっきり2年後3年後と決めないと、自分の子は卒業して関係なくなってしまう。子供の状況を見ても、もう少ないのは分かっているのだから、何年後にはほかの学校に行くとか、はっきり言わないと残っている人は心配になる。卒業したら関係ないという話になってしまう。その辺を審議会で相談して、答えを出しておかないと混乱が起きるのではないかと思う。そのことについて伺いたい。

○委員長 これは先ほどの質疑と重複するので、教育部長意見があるか。

○教育部長 御意見を伺ったが、本当に放っておくことはできないのが実情である。いつとはここで申し上げられないが間違いなく来年度からというのは無理なので、再来年度以降できるだけ早くこれから審議を重ね、大島委員のおっしゃるように時期を示せばいいと考える。

○大島委員 確かに子供たちも不安であるし、保護者も不安であるから、早く方向性を示してもらいたい。実施にはスクールバスの問題やどこの学校に行くのか、その辺もよく考えてもらいたい。確かに自然環境も都会から比べればいいし、景色もいい。しかし、実際にそこに住んでいる人は仕事がない。そういうこともあるから、新聞にも載っていたが消滅可能性自治体として、人口が減っていくのではうまくない。その辺も早めにある程度答えを出して、教育はこうであるということも必要だと思う。その辺よく考えていただければありがたい。答弁は結構である。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項1「小中学校の統廃合に係る未就学児の保護者へのアンケートについて」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 この調査事項については報告事項の1と2、トータル的にこの3本が絡んでおり、先ほどの説明で承知したが、時間軸で教育機関の適正配置に関する審議会等、PTAから上がってきた要望書、それから市の計画が進んでいることもあるが、PTAから上

がってきた要望書の多那地区の声を、当局として重く受け止めたかどうか伺いたい。

○教育総務課長 令和5年度と令和6年度のPTA会長から要望を受け取り、教育長の意見としてもこのままにしておくことはできないとのことで、今後審議会を開催し審議を進め検討されるものだと認識している。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 以上で教育総務課を終了する。

次に、文化財保護課の所管に係る事項について説明願う。文化財保護課長。

(原澤文化財保護課長 説明)

イ 文化財保護課

・調査事項

1 中心市街地の文化財の観光利用について

○文化財保護課長 調査事項1「中心市街地の文化財の観光利用について」である。資料8ページと9ページの上之町文化財施設の使用について御覧いただきたい。

上之町文化財施設は、一般公開や貸館、関連イベント等を開催しながら、文化財としての価値を損なわないよう配慮した上で、観光利用の活用に努めた。まず、施設内の飲食は、これまで水分補給程度としていたが、本年4月より、旧日本基督教団沼田教会記念会堂では、お弁当やケータリングなどの調理を伴わない飲食について可能としたところである。これにより、イベント開催時には、屋外テントやキッチンカーで購入したお弁当の飲食スペースとして利用できるなど、利活用の幅が広がった。

次に、観覧者の増加策としては、建造物の特徴を生かしたインスタグラムに映えるように撮影や貸衣装による撮影、テレビ・映画・雑誌の撮影ポイントなどに活用してもらえよう、SNS等を使った情報発信を積極的に進めている。

文化財保護課からは、以上である。

○委員長 説明が終わった。調査事項1「中心市街地の文化財の観光利用について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 建物自体の規制があり、いろいろできないことについて承知した。道路や住宅が隣接しているが、このエリアで文化財としての活用方法について伺いたい。

○文化財保護課長 大正ロマンエリア、オープンスペースとしての考え方だと思うが、こちらは貸館をメインに考えている。イベントを考えている団体等には、案内として4月6日の久米邸の開館イベントの際のように、道路の一部を交通規制し道路上でも一体的なイベントができるよう、案内させていただきたい。

○副委員長 道路をある程度使うことができるという案内は、近隣住民へ情報提供や承諾をいただいているか。

○文化財保護課長 4月6日の許可手続の場合で補足をする。道路の許可申請をするに当たって、まず都市計画課に申請し、その後警察に道路使用の申請をした。あわせて上之町区長へ使用に当たっての同意をいただき、影響が出る住民の方に個別に交通規制になる期間について説明させていただいた。もし同様のイベントがあれば同様にしたい。

○委員長 ほかにあるか。大島委員。

○大島委員 この前の久米邸の開会式の際に、市長も県議も観光とうまくコラボして活性化を図るといふ挨拶があったが、実際どう考えているか。また、内容は考えているか。

○文化財保護課長 まずは行政としては貸館それから施設の一般観覧を中心に実施をしている。貸館の中でイベント等検討している方に関しては、施設の案内においてできるだけ利用が可能になるよう個別相談で対応したいと考えている。行政の力でできない部分を民間の力を借りてイベントが盛り上がるように、民間の方に補完していただくイメージで大正ロマンエリアの活性化、それから本町通りのにぎわいにつながるイベントができればと考える。

○大島委員 よく考えてもらいたい。道路は規制をしなくては駄目なのか。道路として申請になっているのか伺いたい。

○文化財保護課長 現状の所管は都市建設部の範疇になる。まだ市道認定されておらず、管理している都市計画課に相談している。

○大島委員 実際問題、久米邸ができたが沼田市民は知らない人が多い。見に来る人もほとんどいない。やはり中道の道路があれば広いのだから全部規制を外して使えるようにしなければ人は集まらない。普段から道路を使えるようにして、食事もできるようにすれば、みんなで長椅子に座って蕎麦でも食べるなど、そういうことで街なかにつなげればいい。大金を投資している割には観覧者も少ない。どうしたら人が来るか考えるべきである。また、空いている土地もあるから、調理する場所も造ったりして、街なかとうまく話し合いを進めたらいいと思う。ある程度縛りを緩めないと、これだけのものをつくって、みんなに見せないのと同じである。いかにあそこに人を集めるのが大事である。沼田に宝があったのだと。貯蓄銀行についても金庫がなければおかしいので、ちょうど金庫の話があったので設置することにした。みんなでいかに利用するか、そういうことをよく考えないと。市長と県議は街なかの観光につなげると言っていたが、実際市はどう考えているのか。前向きに検討しているとの話だが心配であるので部長に伺いたい。

○教育部長 様々な意見があると思うが、参考にさせていただきたい。おっしゃるとおり利活用は非常に重要なので、その部分については検討もする。今後どのような形にするかは、市民の皆さんや民間の実業家の方の意見もあったので参考にしたい。

○大島委員 やはりこの4つの建物が、どのくらい費用がかかっているのか市民にある程度訴えたほうがいい。そうでないとただでもらったのではないかと思っている人もいる。合計で何億かかっているか市民に知らせるべきである。その都度その都度これだけかかっていると聞かないと忘れてしまう。

○教育部長 金額については控えていない。経過としては市民からの提案や行政、議員からの提案も含め、行政、議員の了解を得た上で事業実施をこれまでしてきたという経過がある。おっしゃるとおり莫大な経費をがかかっていることをもう1度市民も行政もみんな再認識しながら、沼田らしさという部分で大正ロマンエリアを整備してきたので、有効に使いたい。今後もお知恵をいただければありがたい。

○委員長 他にあるか。高柳委員。

○高柳委員 ずっと前から中心市街地の活性化は、私も20年以上見てきたが、いいか悪いかは別として、大正ロマンの施設が4つここに揃ったわけである。このエリアができたわけだから、これを元手に何か考えたいというのは、恐らく教育部も街なかも同じだろうと

私は思う。そのようなテーブルを具体的に設けていただきたい。というのも御存知だと思うが、歴史的資源の活用の円滑化に向けた調査事業事例集という日本中の成功事例がある。例えば四国の愛媛県のお城を民間に委託して天守閣に一泊できてしまう。沼田市内でいうと南郷の曲屋は、建物内で飲食ができる。県と国でレベルが違うなどいろいろあるかもしれないが、多分活用の仕方とすると、このような使い方をしてもらいたいというのが民間の方の感覚で、一方で高い金を出したのだから長く保存しようと思うのが教育委員会の考え方だと思う。どんなに頑張っても数百年でいずれ朽ちていく。特殊な加工をしない限りは文化財の価値がなくなっていく。数百年のスパンをどのようにして活用するかはやはり多くの人の心に残るほうが大事だと思う。だから、この事業は国交省のホームページにも掲載されている。文化庁のホームページから見るができる。それで先ほど来言ってるがどういう事情でどのように活用ができるか、民間に貸したらこのようにできる。国の規制はこうなっている。このようにしたらできるようになった。成功事例であるから失敗のほうが多いものだと思うが、ぜひこの経済部と連携して、みんなが思っている一般的なイメージに近づける努力をしてもらいたい。そういう考え方が、新年度以降あれば伺いたい。

○文化財保護課長 庁内での連携という部分であるので、まずは情報収集しながら連携できるように研究してまいりたい。

○高柳委員 市長もあのような場で発言をしているわけであるので、ぜひそれに向けて具体化してもらいたい。次は、それに向けて細かい話だが、この写真の4つの施設で評判がいいのは旧日本基督教団沼田教会記念会堂である。これは音楽をやってもいいし、非常に喜ばれている施設だと思う。残りの三つはなぜ駄目なのかというと、使うイメージが湧かない。使うイメージとして、このように使えますよとイベント等で示していただけない。大正ロマンなので、高級な紅茶を飲むのもいいと思う。飲み物が床に垂れたら大変など、いろいろあるかもしれないが、路地を使ってもいいわけである。クッキーを食べながら、高級な茶会ができるなどイベントで示してもらえると市民やホームページを見た方はイメージが湧く。このような考え方を取り入れる考えがあるか伺いたい。

○文化財保護課長 建物ごとに例で申し上げる。旧土岐邸は対照的に和風な建築であるとか、教会はついせんだってドラマに使われたとか特徴があるかと思う。利用目的に応じた利用団体等の方と御相談させていただき、随時SNSなども使い広く利活用できる部分を発信したいと考えている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で文化財保護課を終了する。

次に、スポーツ振興課の所管に係る事項について説明願う。スポーツ振興課長。

(阿部スポーツ振興課長 説明)

ウ スポーツ振興課

・報告事項

1 沼田市民プールの利用期間の変更について

○スポーツ振興課長 報告事項1「沼田市民プール利用期間の変更について」である。10ページを御覧いただきたい。

沼田市民プールの利用期間については、7月第2土曜日から8月24日までとしていたが、本年度から小中学校の夏季休業日が8月26日までに改正されたことから、市民プールの利用期間を小中学校の夏季休業日に合わせ、8月26日まで延長するものである。

スポーツ振興課からは、以上である。

○スポーツ振興課長 休憩願う。

○委員長 休憩する。

(休憩 午後2時6分から午後2時8分)

○委員長 休憩前に引き続き会議を開く。報告が終わった。報告事項1「沼田市民プールの利用期間の変更について」質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で、スポーツ振興課を終了する。

(4) 今後の日程について

○委員長 次に(4)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の提案のとおりとしたいと考えるが、よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、そのようにしたい。以上で教育部各課の所管事項報告・調査事項説明を終わる。

(教育部 退室)

○委員長 休憩する。

(休憩 午後2時10分から午後2時13分)

(2) 総務部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 休憩前に引き続き会議を開く。それでは、次第(2)総務部各課の所管事項報告・調査事項説明を行う。

まず、秘書課の所管に係る事項について説明願う。秘書課長。

(栞原秘書課長 説明)

ア 秘書課

・報告事項

1 第85回下田黒船祭への参加について

○秘書課長 報告事項1「第85回下田市黒船祭への参加について」である。本市の姉妹都市、静岡県下田市の黒船祭が5月17日から19日の3日間の日程で開催される。本市からは

市長が17、18日の2日間、沼田商工会議所の井熊会頭、沼田市観光協会の山田会長、J A 利根沼田の田村組合長に同行いただき、17日の歓迎交流会、18日の記念式典と公式パレードなどに御参加いただく予定である。

また、今年は、市議会から議長ほか合わせて10名の議員にも御参加いただく。よろしくお願ひしたい。

なお、今年は物産振興会、沼田踊りの踊り手の皆さんにも御参加いただき、交流を図っていただけると伺っている。御承知おき願ひたい。

秘書課からは、以上である。

○委員長 説明が終わった。報告事項1「第85回下田黒船祭への参加について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 概要は承知した。姉妹都市の黒船祭のこともそうだが、高校生や小学生の派遣について検討されたことがあるか伺いたい。

○秘書課長 今年度第85回の黒船祭については検討していない。過去には、児童生徒が参加した経過があるがここ数年実績はない。大きな事業となるので、もしそういった段階になれば、事前にしっかりとした検討をしていくことになる。

○副委員長 このタイミングでは遅いと承知しているが、今年は市制70周年ということもあり記念のタイミングなど、できれば毎年子供たちには経験してもらいたいと思う。ぜひ今後議論の材料として挙げていただき検討をお願いしたい。

○委員長 他にあるか。大島委員。

○大島委員 黒船祭の参加ということで、沼田小学校のマーチングバンドが何年か前に行った。5年生、6年生になってすぐの5月のため、大変難しいと言われたが何人かで行った経過がある。そのとき好評であった。このためまた検討したほうがいいかもしれない。そのことについて伺いたい。

○秘書課長 マーチングバンドが参加した経過が過去にあることは伺った。今後、児童生徒の参加を検討する際には検討したいと考える。

○大島 学校とよく話をしてもらいたい。

○秘書課長 了解した。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で秘書課を終了する。

次に、地域安全課の所管に係る事項について説明願う。地域安全課長。

(関上地域安全課長 説明)

イ 地域安全課

・報告事項

- 1 沼田市消防団消防ポンプ操法競技会について
- 2 利根地区防災行政無線の再開について

○地域安全課長 まず、報告事項1「沼田市消防団消防ポンプ操法競技会について」である。2ページを御覧いただきたい。

沼田市の消防団員が消防機械器具の取扱い及び操作の技術を競い、消防技術の向上を図

ることを目的として開催するものである。本競技会は令和元年度の開催以来、コロナ禍の影響で実施を見送ってきたが、5年ぶりに開催する運びとなった。

期日は5月19日（日）、午前8時30分開会、沼田公園の広場にて開催する。参加部としては、各分団から選出された自動車ポンプの部5チームと、小型ポンプの部9チームの計14チームの参加である。委員の皆様には、先日御案内を通知させていただいたところである。ぜひ御来場いただき選手に激励をいただきたい。

次に、2「利根地区防災行政無線の再開について」である。住民からの再開要望、地区特有の被災リスク等を考慮し、今年度から新たに運用を開始するものである。

なお、再開に当たっては、利根地区の既存屋外子局18局及びコミュニティセンター敷地内に新設する屋外子局1局について、既存施設を有効活用しつつ、従前型の無線による単独波ではなく、携帯電話による通信規格であるLTE通信等を活用した情報伝達手段を導入することとし、必要な改修整備を行う。改修整備は、既存のシステムと連携拡充する形であり、既に4月1日付けで改修業務委託契約を締結した。履行期間は9月30日までとし、10月上旬の供用開始予定である。

地域安全課からは以上である。

○委員長 説明が終わった。報告事項1「沼田市消防団消防ポンプ操法競技会について」質疑はあるか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 次に、報告事項2「利根地区防災行政無線の再開について」質疑はあるか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 なければ以上で地域安全課を終了する。

次に、企画政策課の所管に係る事項について説明願う。企画政策課長。

（角田企画政策課長 説明）

ウ 企画政策課

・調査事項

1 シン・ヌマタ事業における風の谷構想及びにつぼんの宝物の成果と市内への経済効果について

2 公共施設の予約状況の見える化に向けた検討状況について

○企画政策課長 まず、報告事項1「シン・ヌマタ事業における風の谷構想及びにつぼんの宝物の成果と市内への経済効果について」である。風の谷構想の成果については、息の長い運動であるため、これまで報告させていただいたとおり、利根沼田への誘致は成功したが、期待される経済効果はこれからと考える。につぼんの宝物の成果については、定住自立圏主催による事業として、利根沼田の事業者の協力体制の涵養が大きな成果と考える。参考資料として、4ページに、につぼんの宝物JAPANグランプリ2023-2024結果報告を添付したが、準グランプリを受賞した宮田農園の藤稔の燻製ぶどうは8月にシンガポールで開催される世界大会への出場権を獲得した。経済効果は、現時点では数値的算出は困難であるが、利根沼田全体としてのブランド価値の向上等、期待するものである。

次に、2「公共施設の予約状況の見える化に向けた検討状況について」である。8ページに資料を添付したが、現在、テラス沼田6階コミュニティテラスや各地区コミュニティ

センター、保健福祉センターについては、本市ホームページで予約状況を確認することができる。今後の拡充については、市民ニーズ等も考慮の上、対応を検討したいと考える。

企画政策課からは、以上である。

○委員長 説明が終わった。調査事項1「シン・ヌマタ事業における風の谷構想及びにっぽんの宝物の成果と市内への経済効果について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 にっぽんの宝物について、まだ始まったところで効果が算出しづらいということは承知した。これはふるさと納税など、経済効果を上げられるような方向でぜひお願いしたい。これについては答弁は結構である。次に、シン・ヌマタであるが利根沼田に誘致することができ、具体的にはこれからということであるが、現段階でこのエリアでこういった事柄を行うなど、何か示せるものがあれば伺いたい。

○企画政策課長 現段階では、利根沼田への誘致ということで全体的には成功しているが、具体的にどこのスポットでということまでは、まだ確定していない状況である。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「公共施設の予約状況の見える化に向けた検討状況について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 会議室やコミュニティテラスの予約状況は確認できるが、スポーツ施設の体育館やグラウンドなどは確認できない。こういったスポーツ施設のニーズが高い。先ほどニーズを見ながら検討していくということであったが、スポーツ施設は使う人の生活時間で、画面上で空き状況が確認できると予約がしやすい。電話であると、対応してくれた方の対応力により差が出てしまう。そのようなところで市民が不満を感じてしまうことがあるので、特にスポーツ施設についてはニーズが高いことをお伝えするので、ぜひ検討願う。

○企画政策課長 現在公開に至っていない施設については、体育施設も含め関係各課等と調整がつかなかった施設である。今ご指摘があった市民のニーズ等も踏まえ、予約状況だけでも見える化が進むような方向で検討研究を進めたい。

○副委員長 ぜひよろしく願います。

○委員長 ほかにあるか。高柳委員。

○高柳委員 このことについては、これから常任委員会で調査研究予定であるが、ニーズを見ながらという話であったが、ニーズを上げるという要素もある。見える化をすることで、この日が空いているから予約しようとなる。空いていなければ、他の町村の施設へ行こうかなとなるわけである。幾らかお金と労力がかかることは承知しているが、スポーツ施設も公共施設である。以前に世田谷区の事例を示したが、同じようにできれば会議の際に携帯で予約ができてしまうわけである。これにより沼田市も利用状況が上がっていくことにもつながるので、費用がかかることは承知しているが、ぜひ頑張っていたきたい。その辺の検討状況について伺いたい。

○企画政策課長 システムの関係は、以前御指摘いただいた際にも検討したが、費用が大分かかるということで見送りの経過がある。現状市民のニーズは、電話予約でのアナログが圧倒的である。ただ要望はあるのでシステム化が進めば利用も増えると思う。今後の本市のDX推進の観点からも有益であると考え、さらに研究を進めてまいりたいと考える。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で企画政策課を終了する。

次に、財政課の所管に係る事項について説明願う。財政課長。

(本多財政課長 説明)

エ 財政課

・報告事項

1 令和4年度財務書類について

○財政課長 報告事項1「令和4年度財務書類について」である。市が保有する資産・負債や、行政サービスに要するコストなどについて、企業会計の考え方を活用し明らかにするため、総務省が示した「統一的な基準」により作成したものである。

配付した資料は、財務書類を概要としてまとめたものであるが、1枚目は一般会計等で一般会計のほか、奨学資金貸付金及び歳計外現金が含まれる。また、2枚目は全体会計で先ほどの一般会計等に特別会計4会計並びに水道、簡易水道及び下水道の3事業会計を加えたものである。資料中、①の貸借借対照表から④の資金収支計算書までの財務4表については記載のとおりであるが、右側に市の資産と負債の状況、また、令和4年度財政運営の総括ということでまとめを記載した。1枚目の一般会計等で前年度と比較すると、市民1人当たりの資産が161万円で2万円の減、負債が73万円で1万円減と、ともに減少した。また、純資産比率は0.2ポイント増の54.7%、有形固定資産原価償却率は1.6ポイント増の64.2%、負債比率は0.6ポイント減の82.8%となった。こちらは市有施設の老朽化が進んでいる状況が反映された結果となった。

財政運営の総括については、業務活動、投資活動、財務活動という性質の異なる3つの活動に係る収支が示されているが、このうち財務活動収支は、地方債の償還による支出と比較して地方債の借り入れによる収入が少なくなっている令和4年度の状況を現している。

今後、ホームページにおいてこの概要版のほか、正式な財務4表も公表するので御覧いただきたい。なお、今回の資料については、本委員会終了後、ほかの委員会所属の議員にも配布させていただくので、承知願いたい。

財政課からの説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。報告事項1「令和4年度財務書類について」質疑はあるか。私のほうからいいか。

○副委員長 委員長。

○委員長 この貸借対照表の部分がよく分からないのだが、先ほどの説明の中で民間的という話があったが、通常だと損益計算書があると思う。今の説明では資産と負債のバランスだけでおっしゃっているが、資産に対する減価償却を除きたいいわゆる残り算だと思う。損益計算書を作成するのか伺いたい。要するに、税収に対する経費がどのくらいかかるのか、それを見ないと資産価値ばかりで高評価しており、正直全然意味が分からない。公表しても、これでは恐らく市民が一番心配している税収がどのくらいであって、それに対する経費がどのくらいかかったのかが分からない。損益計算書が知りたい。その辺の対応があるのか伺いたい。

○財政課長 こちらに成果品を持参しているが、記載されているものが財務書類としての実数分析で、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、金収支計算書というものが書類としては含まれている。申し訳ないが企業の会計処理における損益計算書に相当するものが、この中に含まれているかどうかはお答えできない。分析表として先ほど申し上げたものが成果品として作成してある。こちらにあるものは国の指標により作成したものである。

○委員長 国が示すことだから、全国どこでも正直やばい。個別にこれを公開しろとは言わないが、一番心配しているのは先ほどと重複するが収支バランスだと思う。減収となった場合どうするのか一番心配している。特に私が一番思っているのが有形固定資産、いわゆる建物の価値や車である。例えばリースなら損益の一部を載せると思うが、1人当たりの資産が161万、負債が73万で、1万円2万円がプラスマイナスになっている表現は非常に迷うところである。市民が安心する可能性もある。国に示す書類はこれでいいが、やはり補助的な損益計算書、これを財政課として作らないと対応できなくなる。今後その辺の検討について伺いたい。

○財政課長 御意見をよく勉強させていただき参考にして、取り入れていけるところは取り入れるようにしていきたいと思う。

○委員長 ほかに。高柳委員

○高柳委員 民間の方からすれば当然の質疑だと思う。国も単式から複式にきなさいという流れの中で、ようやく複式になったというだけである。なぜかというと、収益事業がなくお金を稼ぐところがないので売れもしない市役所の土地を評価しているわけである。それで収支を合わせている。私はそう捉えている。委員長の問いに答えるとすると、個別の収支を明確にして次頑張るということが正確に伝わらないと、間違っただけ数字が出てしまうのではないかという指摘だと思うので、今後直す機会があればそここのところを注意して直していただければと私は思う。そんな捉え方でいいか。部長でも課長でもいいが考えを伺いたい。

○財政課長 恐らくおっしゃるような意味合いで、私どもは研究をするべきなのだろうとの認識である。

○委員長 ほかにあるか。副委員長。

○副委員長 これは沼田市の健康状態を表す数字だと思う。先日自分も健康診断を受けたが、例えば血圧がこのくらいだから、この辺に目標値があったらいいと。沼田市の健康状態が今こうであると示していただけたら分かりやすいと思う。ここが沼田市はもう少し頑張れる。このように表現していただけると、非常にこちらも提案しやすいので検討願いたい。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で財政課を終了する。

次に、契約検査課の所管に係る事項について説明願う。契約検査課長。

(横山契約検査課長 説明)

オ 契約検査課

・報告事項

1 令和5年度入札及び検査の執行状況について

○契約検査課長 報告事項1「令和5年度 工事等入札執行状況について」である。資料13ページを御覧いただきたい。1競争入札発注件数であるが、一般競争入札81件、指名競争入札10件、合計91件であった。このうち落札件数は、一般競争入札73件、指名競争入札10件、合計83件であり、不調は8件であった。また、カッコ内の数字は令和4年度の実績であった。比較すると競争入札発注件数は3件の減少、不調件数は2件の減少であった。

次に、2発注件数内訳であるが、一般競争入札は、工事が55件、うち不調が6件であった。役務が26件、うち不調が2件であった。指名競争入札は、建設コンサルが10件で、不調はなかった。

次に、3落札率であるが、3-1で発注種別ごとに落札率を記載している。工事92.52%、建設コンサル86.46%、役務81.73%、全体88.67%であった。3-2は、工種別の落札率であるので参考に後ほど御覧いただきたい。

次に、令和5年度工事等検査執行状況についてであるが、資料14ページを御覧いただきたい。工事等発注担当課別検査実施件数であるが、検査件数を担当課別、月ごとに集計したものである。上段が工事検査、中段が委託検査である。工事検査件数80件、委託検査16件、合計96件の検査を執行した。令和4年度と比較すると、2件の減少である。また、工事の80件は、検査執行に伴い工事成績評定を付した。まとめたものが、2工事成績評定状況となる。工事成績評定の最高点83.8点、最低点63.8点、平均点75.4点となった。その下の成績評定別工事件数では、工事種別ごとの評定ランク件数を記載したので、参考に後ほど御覧いただきたい。

契約検査課からの説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。報告事項1「令和5年度入札及び検査の執行状況について」質疑はあるか。高柳委員。

○高柳委員 13ページの一番下から3番目の役務の一般競争入札であるが、除草が9件で落札率が68.23というの、3分の2でバーゲンセールにおいては30%カットになるわけである。30%カットで健全な収益を上げられるのか若干心配であるが、その辺の検証したのか伺いたい。

○契約検査課長 役務について除草68.23%だと低すぎるのではないかという御質疑かと思うが、役務は工事と違い最低制限価格を設けていない。役務の提供には、工事と違って構造物を造るものではなく、単純に除草であれば伐採である。労務費いわゆる人件費が主だったもので非常に大きなウエイトを占めることになる。そういった労務費について、最低制限価格という線を引いていないのが今の沼田市の現状である。従って、このような低い落札率となった。国の現状などの社会情勢を考えると、何かしらの線を引いて人件費の確保ができるようにしたほうがいいのではないかなど様々な意見があると思う。その辺は国の動向や社会情勢等を考慮し適切に対応を研究したいと考える。

○高柳委員 おっしゃるとおりだと思う。要は仕入れもないし、構造物が建つわけでもないので人件費勝負だということである。だから人件費で競争するわけである。簡単に言うと、それが最低限の働くに足る賃金になっておらず、心配であることを申し上げた。群馬県の状況は分からないが最近事故が多発している。要は人を減らす。道路工事を見ても、本来は両側に人がいなければいけないとか、信号機を設置しなければいけないとか、高所

で作業するときにもう1人いなければいけないとか、大丈夫なのかというところを私はよく見かける。そういったことにより結局最悪の場合命が奪われることや、一生懸命働いても食べるだけの賃金が得られないということなど、やはり公が出す仕事としては甚だ問題だと思う。ぜひよくチェックをしていただき、いくら何でもこれはおかしいのではないかというところは、どこかで見極めていただきたいと思う。そのことについて考えがあれば伺いたい。

○契約検査課長 何か事故があつてからでは遅いと契約検査課でも考えている。その辺どういった形が適切なのか、研究してまいりたいと思う。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で契約検査課を終了する。

(4) 今後の日程について

○委員長 次に(4)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の提案のとおりとしたいと考えるが、よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、そのようにしたい。以上で総務部各課の所管事項報告を終わる。

(総務部 退室)

○委員長 休憩とする。

(休憩 午後2時40分から午後2時45分)

(3) 総務部及び教育部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 休憩前に引き続き会議を開く。それでは(3)総務部と教育部の所管事項に関する調査事項の検討と意見交換に入る。副委員長。

○副委員長 ふるさと納税について令和4年度、令和5年度の状況についてと、今後どうしていくのか。税収を上げてくれと。先ほどのバランスシートの話ではないが、ふるさと納税について伺いたい。次に、来週消防団のポンプ操法があるが消防団員の処遇と待遇の現状について伺いたい。次に、ふるさとの沼田未来創造奨学金の現状と今後について伺いたい。検討願う。

○委員長 何かこれにプラスにするものもしくは、これとは別のものがあるか。

○高柳委員 今のところない。

○委員長 ないようであれば、これで提出ということによろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは今回まとめてくれたので、このままでいく。

- 副委員長 言葉を修正するかもしれないが。
- 委員長 これで決定する。
- 事務局 消防団の処遇待遇とは具体的にどのようなことか。
- 副委員長 端的に言うと、労働に対しての対価について、実情や課題があれば伺いたい。
- 委員長 付け加えて伺いたい。去年も確認したが、ソレイユ組織について以前ドローンを使うことを聞いたことがあるのだが、ドローン活動を行うのか伺いたい。
- 事務局 ドローンの活用については、事項を増やすことでいいか。
- 高柳委員 1行追加でいいのではないか。市長が言ったのであろうから。女性団員にドローンもいいよねという話をしたわけで、どのように検討しているのか。
- 委員長 たしか、以前にそのような話があったと思う。
- 高柳委員 力仕事ではないところで、活躍の場があるのではないかとということであった。現在どうなったか。
- 委員長 ほかにあるか。教育部のほうはどうか。何かあれば、早めに言っていただければ追加で検討する。よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

- 委員長 それでは、事項の検討については以上で終了する。

(4) 今後の日程について

- 委員長 次に、(4) 今後の日程について、イ 今後のスケジュールについて事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

- 委員長 説明が終わった。次回のスケジュールについては、事務局説明のとおりなので、よろしく願いたい。

(5) その他

- 委員長 次に、(5) その他について何かあるか。副委員長。
- 副委員長 一点気になったのだが防災無線について、10月から復活するということで私もこの立場になって地域安全課長が3人目である。1年ずつ変わっており、行政無線が廃止となり、すぐに復活するなど何かゴタゴタしている。総務文教常任委員会として、防災無線を見ておいたほうがいいのではないかと思ったのだが、電波は見えないし古い放送装置を見てもとは思ったのだが、提案をさせていただいた。
- 委員長 皆さんよろしいか。局長の意見を伺いたい。
- 局長 現状だと既存のものが建っているだけであるので、供用開始になったところで、まず発信基地においてどう処理しているのか見てもらい、次にテスト放送が流せると思うので確認するのはどうか。ただし、各世帯に放送が流れてしまうので、時報が鳴るようにも想定しているので時報を聞くなども考えられる。
- 委員長 それでは、その時期になったら確認することとしたい。ほかにあるか。
- 高柳委員 市内の関連する施設は時間があればみんなで見に来ることもいい。ほかの学

校なども、どこかで時間を合わせて見たいと思う。ぜひ加えてもらいたい。

○委員長 ほかにあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 ないようなので、以上で本日の委員会を終了する。

(午後 2 時 55 分 終了)